

近森リハビリテーション病院 リハビリテーション部

部長 小笠原 正

はじめに

2020年度はPT 5名、OT 4名、ST 2名を採用しリハビリテーション部の運営をおこなった。また、新型コロナウイルス感染症拡大により、リハ部の訓練体制や人員配置など感染対策に配慮しながら、コロナ禍でも効率的に業務が出来る様な運営体制を取った。

運営・取組み

組織運営に関しては、昨年に引き続き、PT、OT科、それぞれ各ユニットに1名ずつ、各階に2名の療法士長を配置する体制を取った。また、各ユニットの主任、療法士長業務の見直しにより、療法士長も単位を取得しながら、各科の管理・教育を行えることができた。各科の教育体制ではコロナ禍で対面研修が難しく試行錯誤しながらではあるが、リモートの研修や、感染対策を行いながら、ノーリフティングケアを推進し、各ステップに応じた研修も実施した。

具体的な取組みについては、各科とも上記の様な対応を行いながら、PT科では、病床稼働に合わせた単位数の調整や、人員配置の調整を行い、効率的な業務ができる体制を取った結果、間接業務時間の短縮が図れた。また、安全面での対応推進により、訓練時の転倒件数は減少した。教育面では、12講座の卒後研修をWEBで実施したほか、学会発表ではsplit treadmillや、脳卒中患者の疼痛についての発表を行った。

OT科では、上肢ロボットの積極的活用や、反復促通療法、電気刺激、CI療法を実施した他、ドライビングシュミレーターによる自動車運転の評価、アプローチを行った。その他、前腕回内外リハビリ装置(PR2)と、上肢用ロボット型運動装置(ReoGo-J)の臨床研究にも参加協力した。

ST科では、新人教育に関しては、リハ部全体の卒後研修会に参加した他、その他の職員に関しては、WEB研修で、回復期リハビリテーション病棟協会の研修会などに参加した。また、診療報酬改定で新たに「摂食嚥下支援加算」を算定するにあたり、要件に応じたシステムの運用を行った。

例年行っている失語症友の会の親睦会に関しては、本年度は感染防止のため実施できなかった。

終わりに

2020年度は、コロナ禍による感染防止のため、従来実施されていた訓練体制の見直しや、研修体制の見直しを行いながら組織運営を行った。また、本年度は、実習生の受け入れの中止や、学会発表も例年より少なかったため、次年度は本年度の経験をもとに、臨床・研究の分野でもより積極的な取り組みを行いたいと考えている。さらに、業務に関しては、今以上に効率化を図る他、ラダーの見直しや、各種マニュアルの見直しも継続し、管理・運営体制の充実を図って行きたいと考えている。